

『なれず』 作：ポチ子

『なれず』 作：ポチ子

私は、

何者にもなれず終わる。

好きなことも、

嫌いなことも、

大して分からぬまま。

なりたいたいものを、

諦めたり、

忘れてたりしながら。

まだ、

誰かの親にでもなれたら、

ちよっとはマシかもね。

何者にもなれないということは、

何も残せないということである。

死んだところで、

生きていたかすらも分からない。

そんな人生だった。

死ぬ前に後悔したって、

無駄なんだけどね。